

## 若者社会参画型学習推進事業について ～成果と課題・今後の方向性～

「若者社会参画型学習推進事業」は、若者の地域づくりへの参加や、様々な人々との学び合いを通して、身近な地域をよりよくすることへの意識を高め、自発的・主体的に行動しようとする人づくりを推進することを目的に、平成 22 年度より取り組んできた事業である。

### 1 成果と課題

#### (1) 第 1 期（平成 22 年度～24 年度）

地域づくり活動への参加を通して若者の力を育むため、若者が身近な地域をより良くすることに関心を持ち、自発的・主体的に関わりを持てるよう、平成 22 年度から 24 年度にかけては「若者によるまちづくり実践塾」という事業名で実施した。

＊事業の成果と課題（第 2 期「若者社会参画型学習推進事業」実施報告書より）

- ・各区で若者の自己肯定感を高めながら地域への関わりを促す事業を企画・実施。若者の地域づくりへの関心を一定程度高めることができた。
- ・3 年間のスパンでは若者の自発的・主体的な行動を十分に引き出すまでには至らなかった。

#### (2) 第 2 期（平成 25 年度～29 年度）

「若者社会参画型学習推進事業」と事業名を変更。地域づくりへの関心をさらに高めながら、参加者が達成感を感じるにより、社会・地域に自発的・主体的に関わるためのプロセスを重視しながら学びの支援を進めた。

＊成果と課題（第 2 期「若者社会参画型学習推進事業」実施報告書より）

- ・地域の方々や関係者との対話を通し、受講者のコミュニケーション力や調整力が向上した。成果物作成の過程では表現力や発信力、交渉力、企画力の向上も図ることができた。
- ・受講者に自主企画、自主活動という意識が生まれ、実践することにより、自己有用感の向上や意欲的に参加するようになるなどの変容が見られた。
- ・前年度の受講者が講師役となり新たな受講者にスキルを伝える姿も見られ、事業の継続実施が人材育成の循環につながった。
- ・受講者が学生の場合、学業やアルバイト、就職活動などにより、長期的、継続的な参加が困難な面もある。
- ・受講者の確保に向けて苦慮している状況があり、高校生層への対象拡大の検討や事業 P R 等について更なる工夫が不可欠である。
- ・身近な地域活動において、若者が参画することで地域がどのように活性化するか、支援者がイメージを持ち、受講者に伝えていくことも今後は必要である。

#### (3) 第 3 期(平成 30 年度～令和 2 年度)

これまでの成果と課題を踏まえ、更に発展させる取組を行った。また、事業の実態に応じながら事業参加者の世代間交流を図り、加えて高校生や専門学校生、社会人への事業

広報にも力を入れた。

**\* 成果と課題**

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果報告書(令和2年度)より)

- ・参加者が地域住民と交流を図りながら、地域を歩いたり活動したりすることで、地域への関心が高まり、自発的な行動につながるとともに、コミュニケーション力や傾聴力、実行力を発揮することができた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各事業の参加者が交流し、互いの取組を学び合う機会を持つことができなかった。

(4) 令和3年度～

複数年度にまたがる期を設けず、年度ごとにPDCAサイクルで事業を展開し、成果と課題を明確にし、次年度へ生かすこととした。

参加者が、地域で活動してみたいという意欲の喚起や自分自身の成長を実感できるよう、主体的に学習ニーズや地域の資源・現代的な課題等に関わる学習プログラムを設定し、地域活動への参加や地域で活動している人々との交流など様々な取組を実施した。

**\* 成果と課題**

- ・学びのプロセスを大切にする中で、地域の課題等の解決に取り組もうとする意識を高め、地域・社会の構成員として、主体的・意欲的に活動できるような人材が育成された。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各事業の参加者が交流し、互いの取組を学び合う機会を持つことができなかった。